

北見市における景気動向調査報告書

< 第 I 四半期 >

北見商工会議所

I. 調査要領

1. 調査時点及び調査対象期間

(1) 調査時点 平成19年7月17日

(2) 調査対象期間 平成19年4月～6月期実績および平成19年7月～9月期見通しについて調査した。

2. 調査対象

北見市に所在する企業を対象に、製造業、建設業、卸売業、小売業、サービス業の5業種150社を往復ハガキにより調査した。

3. 回収状況

| 業種 \ 企業数 | 対象企業数 | 回答企業数 | 回答率 |
|----------|-------|-------|-------|
| 製造業 | 30社 | 23社 | 76.7% |
| 建設業 | 30社 | 27社 | 90.0% |
| 卸売業 | 30社 | 24社 | 80.0% |
| 小売業 | 35社 | 24社 | 68.6% |
| サービス業 | 25社 | 18社 | 72.0% |
| 合計 | 150社 | 116社 | 77.3% |

注) 本調査結果の中で、D・I値とある記号は、ディフュージョン・インデックス(景気動向指数)で好転企業割合から悪化企業割合を差し引いた値を示す

II . 概 況

《 全 体 の 動 き 》

平成19年度第I四半期<4月～6月>の北見市における業況は、前年比で「好転企業」17.2、「悪化企業」50.9、「好転」から「悪化」を差し引いたD・I値は△33.7となっています。このD・I値を、前年同期（△32.1）と比較してみると1.6ポイント悪化しており、平成17年度第III四半期<10月～12月>以来の悪化傾向を示しています。また、前期調査<18年度第IV四半期>と比較してみると前回△26.3→今回△33.7と7.4ポイント悪化を示しています。

今回の業況を業種別で見ると、製造業D・I値△30.4、建設業D・I値△26.0、卸売業D・I値△16.7、小売業D・I値△49.9、サービス業D・I値△50.0となっており、前年同期調査と比較すると卸売業は2.4、製造業は8.5、建設業は30.6ポイントと大幅な好転傾向を示しているが、サービス業では33.3ポイント、小売業では34.4ポイントの大幅な悪化傾向を示しており、全体の業況としては悪化傾向を示しているものの、業種によっては改善傾向が見られる結果となっています。

さらに、来期の見通しを全業種で見ると「好転企業」7.9%「悪化企業」47.4%でD・I値△39.5と、前年同期見通し（△37.9）に比べ1.6ポイント悪化しており、再び厳しさが見えてつある来期見通しとなっています。

《 業 種 別 の 動 き 》

1) 製 造 業

生産高

前年比で「増加企業」17.4%、「減少企業」30.4%、D・I値△13.0と前年同期に比べ31.4ポイントの大幅な好転傾向を示し、4期連続で好転傾向となりました。前期調査との比較でも改善を示しています。

採 算

前年比で「好転企業」8.7%、「悪化企業」39.1%、D・I値△30.4と前年同期に比べ3.0ポイントと若干ですが好転を示しています。

来期見通し

業況D・I値△34.8、生産高D・I値△34.8、資金繰りD・I値△43.4と、前年同期に比べすべて若干ですが悪化傾向を示しており、前年に続き厳しさが伺える見通しとなっています。

2) 建 設 業

完成工事高

前年比で「増加企業」33.3%、「減少企業」48.1%、D・I値△14.8と前年同期に比べ20.1ポイントの大幅な好転傾向を示し、前年に引き続き明るさの見える経営環境を示しています。前期調査との比較でも若干ですが好転傾向を示しています。

採 算

前年比で「好転企業」14.9%、「悪化企業」44.4%、

D・I値△29.5と前年同期に比べて31.5ポイントの大幅な好転を示しています。

来期見通し

業況D・I値△44.5、完成工事高D・I値△40.8、資金繰りD・I値△36.9と前年同期と全てのD・I値が11～24ポイントの好転傾向を示し、数値はまだ高いものの引き続き明るい兆しが見える見通しとなっています。

3) 卸売業

売上高

前年比で「増加企業」29.2%、「減少企業」33.3%、D・I値△4.1と前年同期と比べ14.9ポイントの好転傾向を示し、引き続き明るい状況を示しています。前期調査との比較でも好転傾向を示しています。

採算

前年比で「好転企業」16.6%、「悪化企業」41.7%、D・I値△25.1と前年同期に比べ3.5ポイント改善傾向を示しており、明るい兆しが見える状況となっています。前期調査との比較でも20.4ポイントと大幅な好転傾向を示しています。

来期見通し

業況D・I値△20.8、売上高D・I値4.2、資金繰りD・I値0と、前年同期に比べ資金繰りD・I値が同数で横ばい、業況D・I値が3.5、売上高D・I値23.3ポイントと改善傾向を示し、引き続き明るさが見える状況となっています。前期調査との比較でも業況D・I値以外は好転傾向を示しています。

4) 小売業

売上高

前年比で「増加企業」8.4%「減少企業」58.3%、D・I値△49.9と前年同期に比べ26.9ポイントと大幅な悪化傾向で、厳しい状況を示しています。

採算

前年比で「好転企業」12.5%「悪化企業」66.7%、D・I値△54.2と前年同期に比べ12.5ポイントの悪化傾向を示し、依然として厳しい経営環境となっています。

来期見通し

業況D・I値△54.5、売上高D・I値△54.5、資金繰りD・I値△54.5と前年同期と比べ全てのD・I値が大幅に悪化しており、前期調査でも同様で、先の見えない厳しい来期見通しとなっています。

5) サービス業

売上高

前年比で「増加企業」16.7%、「減少企業」66.6%、D・I値△49.9と前年同期に比べ16.6ポイントと大幅な悪化傾向を示しており、前期調査でも同様で、再び厳しい経営環境となっています。

採算

前年比で「好転企業」5.6%、「悪化企業」66.6%、

D・I 値△61.0と前年同期に比べ27.6ポイントの大幅な悪化傾向を示し、前期調査でも同様に、数値も高く大変厳しい状況にあります。

来期見通し

業況D・I 値△44.4、売上高D・I 値△44.4、資金繰りD・I 値△35.3と、前年同期に比べ資金繰りD・I 値は改善傾向を示しているが、他のD・I 値は11.1ポイントずつ悪化傾向を示し、依然として厳しさが見える来期見通しとなっています。

業 種 別 経 営 上 の 問 題 点

| | 1 位 | 2 位 | 3 位 | 4 位 | 5 位 |
|-------|-----------|-----------|-----------|---------|-------------|
| 製 造 業 | 諸 経 費 増 | 同業者間の競合 | 得 意 先 減 少 | 人 件 費 増 | 人 材 不 足 |
| 建 設 業 | 同業者間の競合 | 諸 経 費 増 | 得 意 先 減 少 | 人 件 費 増 | 人 材 不 足 |
| 卸 売 業 | 得 意 先 減 少 | 同業者間の競合 | 諸 経 費 増 | 人 材 不 足 | 人 件 費 増 |
| 小 売 業 | 得 意 先 減 少 | 同業者間の競合 | 諸 経 費 増 | 人 件 費 増 | 売 掛 金 回 収 難 |
| サービ業 | 同業者間の競合 | 諸 経 費 増 | 得 意 先 減 少 | 人 件 費 増 | 人 材 不 足 |
| 合 計 | 同業者間の競合 | 得 意 先 減 少 | 諸 経 費 増 | 人 件 費 増 | 人 材 不 足 |

※ 問題点は、各業種とも3つ選択。

○前年同期比

全体的に「諸経費増」が増加。「得意先減少」は、卸売業は増加したが、建設業・サービス業は減少。小売業で、5位ではあるが「売掛金回収難」の会社数が増加しつつある。

傾向として、順位は依然として高いものの「同業者間の競合」「得意先減少」の伸びが落ち着いてきて、諸経費増・人件費増といった経費関連の問題点が増えてきている。要因は、同業者自体の減少と原価の高騰（石油等）があげられる。

※その他及び具体的な問題点の記載事項

(製造) ○道路の高速化工事の進捗に比例し流動客減少。(飲食)

○受注単価下落。(鉄工)

(建設) ○材料・ガソリン代の高騰等で諸経費増大、粗利減少。(板金)

(卸売) ○有能な人材不足。(鋼材)

○外交販売の為、石油価格等高騰による経費増額で粗利があがらない。

商店街の状況はどうか。零細企業救済対策を真剣に考えてほしい。(靴・作業用品)

○原油等素材料高騰による仕入価格上昇を、販売価格に転化できない。(肥料)

○石油価格高騰により、転化不足が生じており、利益確保難。(石油)

(小売) ○中心商店街への集客について考えてほしい。基本的に商店街・店舗・商品陳列の美化等簡単に出来ることが出来ていないことが、商売に対する姿勢に反映するのではないか。(事務職の方の意見。)(呉服)

○同業者減により相乗効果減(家具)

(サービス) ○石油等諸経費が全般的に高騰し、その分を販売価格に転化することができない。(仕出し)